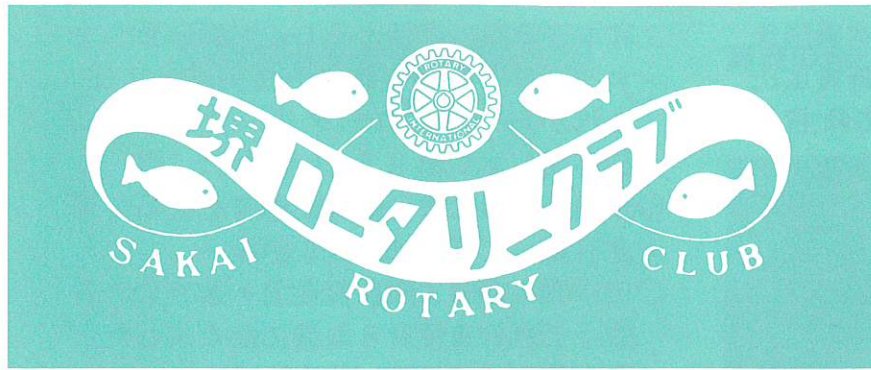


# SAKAI ROTARY CLUB WEEKLY BULLETIN



第2640地区

創立 昭和26年(1951)2月16日  
 例会日 毎週木曜日12:30  
 例会場 ホテル・アゴーラリージェンシー大阪堺3F  
 TEL (072) 224-1121  
 〒590-0985 堺市堺区戎島町4-45-1  
 事務所 ホテル・アゴーラリージェンシー大阪堺8F  
 TEL (072) 238-3250  
 FAX (072) 232-3711  
 会長 林 豊之  
 幹事 木澤 憲一  
 会報担当 田内 潤



## イマジン ロータリー

2022-23年度国際ロータリー会長  
ジェニファー・ジョーンズ

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実かどうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるかどうか

<https://www.sakai-rc.jp/>

<http://www.rid2640g.com/morimoto/>

## 本日の例会

第3456回例会 (21)2022年12月15日

- 今月の皆出席のお祝い
- 例会ソング  
「おゝロータリー」  
「かあさんの歌」
- 卓話  
「上半期を顧みて」
- スピーカー 林 豊之会長

## 前週の例会

第3455回例会 (20)2022年12月8日

- 例会ソング 「それでこそロータリー」  
「山小屋の灯」
- 卓話  
「堺の地場産業  
『注染、和晒し』について」
- スピーカー 宮本株式会社  
代表取締役社長 宮本善隆氏

## 次週の例会

第3457回例会 (22)2022年12月22日

忘年親睦家族会

(夜間例会)

ホテル・アゴーラリージェンシー  
大阪堺4階「ダイヤモンドルーム」



紹介者	高橋 明会員
出席報告	会員 27名
	ZOOM 2名
	ゲスト 2名

ゲ ス ト 宮本善隆氏  
矢野貴広氏  
出 席 率 90.48% (11月17日)  
入 会 式 矢野貴広氏  
紹 介 者 尾関勝利会員  
広瀬幸次郎会員



## 歓迎の歌

乾 杯 矢野様のご入会を祝して。

## 会長の時間

○今月の記念日のお祝い  
代 表 畑崎 篤会員

○本日のゲストの方々へご来会のお礼。

○会長のお話。

## 幹事報告

○本日開催行事  
・持ち回り臨時理事役員会 例会時～  
・入会式 例会時～

○本日の配布物  
・入会のプロフィール  
・ガバナー月信 No. 6 (卓上)

○連絡事項  
・本日も検温、アルコール消毒、マスクの着用のご協力よろしくお願い致します。  
・本日の乾杯の赤ワインはノンアルコールをご用意しております。  
・次週以降で欠席がわかっている方は、出席版に黄色のシールを貼っておいて下さい。又はホームページの会員ページからのご連絡よろしくお願い致します。

## 委員長報告

○永井ファイヤーサイドミーティング担当委員より、ファイヤーサイドミーティングのご報告とお礼。

## ニコニコ報告

○林豊之会長より、本日の卓話者、宮本(株)

宮本善隆様、卓話よろしくお願い致します。本日ご入会されました矢野貴広様、これから一緒にロータリーライフを楽しみましょう。

○畑崎篤会員より、結婚記念日を祝って頂き有難うございました。

○田中雅人会員より、誕生日のお祝い、有難うございます。55歳になりましたがまだまだGOGOと頑張っていきたいと思えます。

○鹿毛靖会員より、誕生日のお祝い有難うございました。来年も良い年になるよう頑張ります。

○尾関勝利会員より、矢野貴広新会員の入会を祝して。私も岡山大学の出身であり、且つ大和証券(株)元社員でした。奇遇です。

○広瀬幸次郎会員、矢野貴広様堺RCへの入会おめでとうございます。ロータリーライフを充分にお楽しみ下さい。

以上それぞれニコニコ箱へご寄付頂きました。

ありがとうございました。

ニコニコ箱	6件	33,000円
累 計		477,000円

## 今月の皆出席

東野 裕暢会員31年(平成 3年入会)  
石崎 雅也会員11年(平成23年入会)

## SRフォト同好会

— 山茶花 —



熊野道夫会員

## 臨時理事役員会議事録

日時 2022年12月8日(木) 例会時～  
場所 ホテル・アゴーラリージェンシー  
大阪堺3階 例会場  
出席者 林・佐野・寺崎・福井・石崎・  
畑崎・神山・東野・木澤・信田・  
谷村・永井・野地 (敬称略)

### I. 議案

1. 大阪公立大学「留学生国際交流事業」  
のご寄付の件  
名称変更しましたが事業内容が同じ  
の為、昨年度通り、国際奉仕委員会よ  
り3万円寄付する。  
(旧：府立大学留学生日本語弁論大会)  
承認

### 他クラブ例会変更のお知らせ

堺北RC

- 12月30日(金)の例会は 休会  
(定款第7条第1節の規定により)
- 1月6日(金)の例会は 休会  
(定款第7条第1節の規定により)

※メイクアップ場所は、

ポピア3階12:00～12:30の間受付。

堺東RC

- 12月27日(火)の例会は 休会  
(定款第7条第1節の規定により)
- 1月3日(火)の例会は 休会  
(定款第7条第1節の規定により)
- 1月17日(火)の例会は12日(木)  
於：ホテルアゴーラリージェンシー大阪堺  
(新春合同例会)

堺RCは、

- 12月22日(木)は、忘年親睦家族会の  
為、お昼の例会はございません。
- 12月29日(木)、1月5日(木)は、  
休会となっております。
- 1月12日(木)新春合同例会10時受付、  
10時30分開始 場所：4階ロイヤルホール  
となっております。

## 源流の会ー ロータリアンの広場

「人生の次元」であったロータリー



第2510地区PDG  
(札幌東)  
塚原房樹

生活があって人生のない一生ほどわびしいものはないでしょう。将来のための努力や、人や社会に貢献する「人生の次元」は、「生活の次元」には特に役に立たないかもしれません。われわれがロータリーに入会したのは、「人生の次元」を価値あるものにするためだったのではないのでしょうか。「どういう生活を送りたいか？」と「どういう人生を送りたいか？」では、答えが違ってくるでしょう。そして、生活を大事にするか、人生を大事にするかによって、生き方は変わるでしょう。生活があって人生のない一生は、何かもの足りないのではないのでしょうか。日々の生活に追われるだけの生き方、退屈のぎ・ヒマつぶしのような生き方、ただ楽しいだけの生き方では……。ワーズワースの言葉に「思いは高く生活は単純に」。

「人生には思いが常につきまとう。生活とは、食べて、寝て、起きるの繰り返し」という言葉があります。別の言い方をすると、人間は二つの家が必要です。ロータリアンは2軒の家を持っています。「肉体の住まう家」と「心の住まう家」です。1軒は肉体と心の安らぐ家庭(マイホーム)で、明日の仕事のエネルギー再生産の場です。もう1軒は「心の住まう家」です。そこは自己実現の欲求を達成できる非日常の世界です。人は、パンのみでは生きられない。心の糧が必要

です。ロータリーは「心の住まう家」なのです。ソクラテスは明言しています。

「君たちは食べるために生きているが、僕は生きるために食べている」。こんな当たり前のことを言ったために死刑になりました。ロータリーは私に、人は何のために生きるのかという「人生の哲学」を教えてくれた「非日常の世界」です。ロータリーは人生哲学を学ぶところであり、「心の住まう家」すなわち「人生の次元」といえます。それは「心の安らぐ家庭」すなわち「生活の次元」を超えた、あえて普段とは違う環境を自分で設定することによって作り出される「スペシャルな非日常」の世界です。

ところが、問題は「人生の次元」として我々が心から信奉してきた思想の殿堂であったロータリーが、精神性を棄てて形而下的な慈善団体になってしまったことでもあります。ミレニアム 2000 年を機に国際ロータリーはロータリー第 2 世紀への体制強化のために、情緒的自由結社から NPO(非営利組織)へと変わりました。

慈善事業は宗教的または道徳的動機により、資本主義以前より古くから社会的に賞賛すべき善行として存在しています。しかし、それはあくまでも個人個人の善意によるもので、それぞれが分に応じて喜捨することによって成立していました。ところが万人平等の自由競争、市場経済が想像を絶する様な巨大なものになり、それが国際的な格差にまでなってくると、通常の市民による個人的善意などでは手が及ばなくなってしまいます。そこに生まれたのが「他人の金を集めて善行をする」というフィクション(虚構)です。

然もこのフィクションは公的国家的なものもとより、民間組織であっても 一見、建前はまことに立派であって申し分ない……だから虚構というのですが、RI も非営利組織となり構成員の金を集めて奉仕

する奉仕請負業となりました。つまりロータリアンは自分自身の寄付を、ロータリー財団にアウトソーシング(外部委託)して奉仕の代行をしてもらうようになったのです。いいことをしたいと思う人々の善意に訴え、他人の金を集めて奉仕して、そこから経費と多額の人件費を手にする非営利組織となった RI の虚構に接して、

私の大切な「人生の次元」であった「無私の奉仕」を唱える、かつてのロータリーはもはやなくなってしまいました。人を作るための自己啓発を目的とする思想団体から、寄付金目当ての慈善団体に変わってしまったロータリーと旧老タリアンはどう向き合うべきなのでしょう。

それに比べ、最近の若いロータリアンは、現在のロータリーを非営利組織の慈善団体として抵抗なく受け入れています。老タリアンの私は、マッカーサーの「老兵は死なずただ消えるのみ」の心境となってしまいました。しかしまだロータリーの会員を続けているのは、ロータリーで結ばれた大切な友人達がいるからです。昔のロータリーはよかった、原点に戻ろうという声をよく耳にします。しかし、原点回帰は問題解決のための一つの考え方ですが、掛け声ばかりでは現実社会でのリセットは簡単にはありえません。原点回帰を目指したところで、官僚支配による RI 理事会が深謀遠慮、ここまで今日の姿を見通して周到綿密な計画を立て、積み上げられてきたものは絶対になくならないでしょう。

しかし、思考を原点に戻すことで、人は当初に抱いていた理想を思い出すことはできます。復古主義、保守主義のいずれにしろ、問題は RI の理事会自体が原点回帰の重要性を認識して、事務官僚たちの権限を統制コントロールできるかどうかにかかっています。そのために、われわれ日本のロータリアンは、何ができるのでしょうか？何をなすべきなのでしょう？

(2022. 11. 26)